

|                  |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 西洋文化史講話(佐藤堅司, 紀元社發行)                                                                                                                                                                                              |
| Sub Title        |                                                                                                                                                                                                                   |
| Author           | 有賀, 春雄(Ariga, Haruo)                                                                                                                                                                                              |
| Publisher        | 三田史学会                                                                                                                                                                                                             |
| Publication year | 1928                                                                                                                                                                                                              |
| Jtitle           | 史学 Vol.7, No.4 (1928. 12) ,p.166(632)- 167(633)                                                                                                                                                                   |
| JaLC DOI         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Abstract         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Notes            | 書評                                                                                                                                                                                                                |
| Genre            | Journal Article                                                                                                                                                                                                   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281200-0166">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281200-0166</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第一章各藩の切支丹迫害 第二章浦上切支丹の總流罪 第三章旅の話 第四章默許時代 附錄 (一)浦上外海五島地方に傳はりし祈禱文ならびに年中行事 (二)浦上の記念碑

その他挿書地圖 前編後編合せて三十六

全編殆ど、どの頁を讀む時も私は之を冷靜に讀み續けることが出来なかつた。自分は幾度か巻をおいて暇の熱くなるのを覺えた。殊に琉球滯留十八年間の苦心、舊信徒發見の顛末、各藩の迫害、浦上信徒の總流罪、旅の話等に實に小説よりも奇なる話が至るところに讀まれる。牢破りの話や、枕の中に證據を見つけた肉親の切支丹を訴へ出る話、監禁された信者にあてがはれた握り飯の上前をはれる話や、六尺に三尺の牢に十六人も入れられた話や、生き乍ら蛆虫にかまれる話や、牢内で衰弱の爲髪がぬけおちてお岩のやうな姿になる話、棒責、算木責、ありとあらゆる責苦にあつてなほ平然とその信仰を貫く者、苦しみに耐へずして轉ぶもの、再び立ちかへる者の話等々話はつきない。

最後に特につけ加へておきたい事は、この著者が天主教會の司祭にして長崎神學校の教授であり又『イグナシオの心靈修業』『通俗耶穌基督傳』『舊教のはなし』修道者の心得『基督信者實位』『吾主の御苦難』等幾多のカトリック教書類の著者だといふことである。私が何故時にとりたてゝかくいふかといへば、日本に於ける切支丹研究にたゞさはる者の殆んど總てがカトリック教そのものに理解を缺き、從つて其研究には大なる缺陷が供ふ。之に反しかる方面に造詣ある人々の間には、又比較的歴史研究が等閑に附せられてゐるかに見える。(主に雜誌カトリック及びカトリックタイ

クスを通じて) その中にありて浦川氏今回の業績は特筆大書する價值があると思ふのである。又浦上その仙長崎港外の諸島に年久しい迫害の嵐をくぐりぬけて來た信者、若しくはその子孫の人々は未だ舊來の祕密主義を守つて容易に口を開かぬと聞く。浦川師は幸に天主教會の司祭にして長崎神學校の教授、恐らく如何なる人々よりも彼等の話を聞くに便宜があるに違ひない。あれを思ひこれを思つて此の『切支丹の復活』は近頃の好著たるを失はない。忽卒の間に心せはしく書いた此の一文は、徒らに長々しくのみあつて意をつくさず、師の業績を穢しはせぬかと恐れつゝ擱筆する。

(吉田小五郎)

### 西洋文化史講話 (佐藤盛司著 紀元社發行)

文化史の取扱ふべき問題は、頗る廣い範圍に亘るが、文化史として一貫した叙述を行ふ場合には、自らその對象に制限を附すべきであつて、本書の著者がそれを政治、經濟、宗教、學問、藝術の五部門に限定したのは當然である。また文化史は漫然たる事實の羅列では意義がない。各時代の複雑な文化現象の中に、一貫した時代相もしくは、時代的精神を見出して、各時代を特色づけることは、文化史の重要な任務である。著者は此の時代相の研究に最も意を用ひ、凡そ左の如き着眼點を持しつゝ、古代及び中世を此の一卷に收めてゐる。

先づ筆を埃及に起してこれを「黎明時代その一」とし、轉じて西アジアの文化を叙し「黎明時代その二」とする。前者に於ては

既に君主政體が創成せられ、太陽神を主とする多神教の行はれしことを主眼として論じ、後者に於ては多神教が漸次一神教的色彩を取り、遂にヘブライに於て一神教の創成せられしことを述べてゐる。次に「渾成時代その一」として希臘時代を、同じく「渾成時代その二」として羅馬時代を取扱ひ、前者に於ては希臘人が、その獨創力と地理的事狀とに依る獨創文化と、埃及、西アシヤ及びエーゲ海文化とを融合渾成し、彼等の自然に對する自由人間の心を以てする解釋は、凡ゆる文化の内容に現はれたことを力説し、後者に於ては、羅馬は只だ徒らにその政治的發展に依つて希臘の文化を世界に傳播せりといふのみならず、その文化の要素としては希臘以外に埃及や西アシヤのそれを多く包含してゐることを指摘し、これが前者と同じく渾成時代なる所以を明らかにしてゐる。更に羅馬時代に續く中世を、西羅馬の滅亡よりダンテの神曲の出現まで(四七六——一三二一AD)とし、これを「キリスト教封建制度時代」と命名し、凡て此の時代の文化の内容は、キリスト教及び封建制度といふ二つの主潮の中に育成せられしことを詳細に論じてゐる。最後に中世の極端を脱した「ルネサンス時代」に筆を進め、此の時代は單に古典文化が再生せられしに止らず、その思想の綜合は、古代思想と中世思想との和に、更に近世的傾向の加へられたるものなりとの立脚點に基き、殊に多くの頁を費してその文化の内容を微細に論究してゐるのである。

以上は本書構成の大要であるが、その記述の大部分は私に取つては新しい知識であつて、只舊い時代に對する興味と憧憬とを以て、その系統ある叙述と、流れるやうな美しい文章とに魅せ

## 書評

られつゝ巻を了へた。序文に於て著者は頗る謙遜な言葉を以て本書上梓の動機を語られてゐるが、然し本書を一讀したものは何人と雖も、著者が一つ一つの文化内容即ち政治史に經濟史に宗教史に美術史に學問史に研究の淺からぬことを知るであらう。本書の如きは詢に、各方面に研究を積み、完全なる知識を把握し、充分にこれを咀嚼し盡した人に依つて初めて爲し得べき種類のものである。殊に著者が美術史に造詣深く、此の方面に對して極めて深切なる解説を施しながら明徹なる批評を加へられし上に數多き挿入圖版に相當する解説の頁を示されたるが如きは讀者の甚だ便とするところであつて、著者の心根の程も偲ばれてうれしい。只だキリスト教封建時代の哲學として、國家と皇帝とに對し教會と法皇の優越を與へたトマス・アクイナスの教會擁護の哲學が、間もなく *Marsiglio of Padua* & *William of Ockham* に依つて論駁され、サイクリフやエラズムスや更にルターをも導いたことが省略されてゐるのが、曾て此の時代の思想の變遷を讀んだ記憶から何となく物足りなく思はれた。勿論大きくルネサンス時代の特色を把握せんが爲には當然割愛さるべき問題であらうが、著者は既にダンテに於て一部分にルネサンスの特色を認めて中世から近世への變遷を論じた。してみれば教會擁護のトマスの哲學が崩壊して行く過程を辿るのも、ルネサンスをより明らかならしめる點に於て必らずしも無益のことではないであらう。(有賀春雄)

## 上代譯制の研究(坂本太郎著) (亞文堂發行)